

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原一夫 TEL06-6833-9227
 広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田茂夫 TEL072-850-5781
<http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/>

平成17年4月(2005年) No.472

OMC映像フェスティバル 45回目の節目にあたって

会長 合原一夫

OMC映像フェスティバルは今年で45回目を迎えます。毎年開催してきて早や45年目ということで、その歴史の深さをあらためて感じ入ります。8ミリ映画時代からOMC会員諸氏は、年一度の映像作品発表会めざして質の高い作品を一年一作でもよいからとじっくりと取り組んで作ってきたという伝統があり、長さも15～25分程度のドキュメンタリーやドラマがプログラムの何本かを必ず占めていて目玉でした。これは川畑健二前々会長(故人)の方針であったと思います。お蔭様で毎年の発表会は朝日生命ホールを満席にする盛況でした。それだけOMCの発表会は期待されていたのです。その伝統は今でも続いていて毎年大勢の観客を集めています。さて、この映像の世界もビデオとなりハイビジョンの時代になろうとしています。会員さんも大幅に増え、例会作品数も多くなりました。ですがいざ発表会に出しても恥ずかしくない作品となると案外少ないのが現状です。撮影は皆さん向上しましたが「音」に関する課題が多くあります。45回発表会に向け、この一本と思われる自分の作品に対し、徹底的に向き合ってみてみてください。そのために作品研究会を活用してください。講師の関さんも張り切っています。筆記用具持参でということです。どうぞご参加を。

4月例会のお知らせ

4月例会は23日(第4土曜日)午後6時より大阪市立難波市民学習センター(JR難波OCATビル4F)にて開催します。このところ出席者、出品数とも増えています。どうぞ早めにお越しください。

作品研究会のお知らせ

例会日と同じ場所、同じ日の午後1時30分より開催。今回は関講師によるパソコン編集による「音」の勉強会と、前田世話役によりインターネットによるビデオコンテストの応募法などの説明があります。今回は会場費分担金500円と資料代500円計千円ご用意下さい。また後半時間の許す限り研究会作品の上映も行ないますので作品もどうぞ。

OMC 撮影会

ロケハン報告

合原一夫

去る4月2日土曜日、第2回目のロケハンに行ってきました。岡本さんの運転で、私と関さん、吉岡さんの企画担当世話役の面々です。橋本市までは大阪阿倍野からおよそ2時間と少しかかりました。

撮影予定対象のへら竿づくりの組合長、城英雄さん方へ立ち寄り、お話を伺うと共に、竹をまっすぐに修正する工程（炉で暖めながら曲がった竹を直線にする技術の難しい仕事）を撮影できました。ここの作業場は狭いので、もう少し広い作業場を持っておられるという、城さんの元お弟子さん、田中さんの工房を見せて頂きました。撮影会のときは、城さんもここへ来られて、いろんな工程をやって頂くということです。

外には竹が乾燥中で、これも撮影できませんでした。撮影会の6月はもうこの乾燥工程は撮れないと思います。

つづいて、城組合長のお父さん「魚集」という竿号をお持ちの方（この道では人間国宝的な人、ひと竿何十万円から百万円以上もする芸術品）が、つり堀へ行っているという話を聞き、つり堀へ車を飛ばして、ご本人のお許しを得て釣られているところを近くから撮影することに成功し、今回のロケハンは大収穫でした。関さんはワイドで、吉岡さんと私はノーマルで撮影、いずれ参加の皆さんにおわけできると思います。詳しくは追ってお知らせします。

■全国コンテストで安居、吉岡氏が受賞 小津安二郎記念伊勢映画フェスティバル

第2回短編ビデオコンテスト

特別賞 「御師」 安居利次

特別賞 「お伊勢さんまいり」 吉岡貞夫

伊勢ゆかりのあるテーマの作品を出品され、見事受賞。おめでとうございます。

■応募がネットだけのビデオコンテスト 世界で始めて実施！

インターネット時代にマッチした全く新しい形式のコンテストが実施されます。ビデオサロン主催、NTT西日本協賛の”ビメール大賞”というコンテストです。応募方法は作者のPCの中のAVIファイル

をWMVに変換し、NTT西からダウンロードした専用ソフトを使って、NTTのサーバに送信するという方法です。WMVへの変換は自分で行う必要がありますが、NTTへの送信は専用ソフトを使うので難しくはありません。この試みはこれからのコンテストの在り方を問うものとなるであろうと思います。

主な応募要領

1. 時間は5分以内（長い作品は分割でも可、ドキュメンタリのダイジェスト版もしくは予告編という内容でも可）
2. テーマは自由但し、インターネットで見せることを前提とした作品。
3. プロ、アマ、個人、団体を問わず。
4. 締め切りは3回
 - ・第1回締め 6/20
 - ・第2回締め 7/20（予定）
 - ・第3回締め 8/20（予定）
5. 審査：主催者と映画監督の予定（未定）
6. 賞金は毎回：優秀賞7万円、佳作5万円 入選3万円

詳細は5/20発売のビデオサロン6月号で発表されますが、上記の要領は変わらないと思われまので、皆さん、今から5分以内の作品を準備してください。既作品で5分以内に出来るものはその準備に取り掛けてください。日本初、多分世界初と思います。このコンテストが東京でなく、大阪で実施されることに大きな意義があると思います。OMC会員のみなさん！、奮って応募して入賞を大阪勢で獲得しようではありませんか。WMVへの変換方法、ビメールの使い方は4月研究会で実演の予定です。（前田）

■新入会員のご紹介

鉄具嘉夫さん TEL072-892-0527

〒576-0012 交野市妙見東3-8-15

よろしくお願ひします。

3月例会のレポート

寒さも和らぎ南の国から桜の花便りも聞かれるようになった。3月例会は第4土曜26日18時より、難波市民学習センターにて開催、28名の出席者と13本の上映で、充実した例会となりました。司会は吉岡氏、

書記は関氏、デッキ係 河合、増池、江村の 3 氏、受付は森口氏の担当で進行しました。

■出席者：有村、石垣、江藤、江村、岡本、奥、金子、紙本、河合、黒田、合原、関、西村、秦、華岡、前田、増池、松本、森口、森、森下、森田、安居、山本、吉岡、渡辺、山田、鉄具（新入会員）の 28 氏。

■上映作品

（今月の記録と講評担当：関幹事）

1. ラジオ ウォーク

増池 茂さん 7分45秒

飛鳥遺蹟が点在する田舎道を 2 万を越す人々で埋め尽くす様はまさに壯観。

MBS 主催のウォーキングで、毎年この時期に行なわれているという。作者の説明によると、いくつかの班に分かれ、班ごとに語り部が万葉にかかわる解説が為されていたらしいが、その映像は見あたらない。

「正面から撮ったところが少ない」と司会者が指摘。最近うるさくなった肖像権云々をはばかってか、歩く集団のうしろ姿だけが延々と続いていた。

2. 北風の怒涛（ワイド）

河合源七郎さん 5分00秒

鉛色の空と荒れ狂う大波。真冬の日本海の厳しい表情をみごとに捉えられた秀作。前回の題名「海鳴り」の意味が違うのではと評されたことにつき、辞書や広辞苑などを調べた結果、それぞれ表現がまちまちだった、と作者の説明。どうであれ、改題は正解だと私も思った。強風の海岸では実際に耳で聞く音とカメラのマイクが拾う音はまったく違うものになる。後半はテレビから録った音を入れるなど、かなり苦心されたようだが、効果はいまひとつ。ポコポコ音の中に埋没した風の音は既存の SE 集から録って現音の上にかぶせるしか方法はないだろう。イントロ部分の雪が降る道路 2 カットは無いほうがすっきりする。

3. 梅花を求めて

奥 宏さん 5分02秒

毎年この時期になると必ずお目にかかる大阪城の梅林。それだけに新たな表現方法が求められ、取り組むのが難しい題材でも

ある。訪れた人々の表情、梅のアップ、街なかでは滅多に目にしない小鳥たちも出てきて役者は揃っているが、ここでは当然として見慣れているせいか何の感慨も起きない。作者があらゆる物に注目し意欲的に撮影したのは判断できる。しかしこの梅林は誰がとりあげても、こうも横一列になってしまうのか。なにか規定の枠から抜け切れないもどかしさを感じた。

4. 津波災害から 3 ヶ月

森田光春さん 9分20秒

去年のクリスマス翌日、インド洋沿岸を襲った大津波は、作者がいつもテーマにしているプーケットやピービ島を壊滅した。この作品は作者自身が撮った被災以前の映像に現地の友人から届いたと言う生々しい写真と、一部テレビの映像を元に構成されている。日本のメディアには載せられないショッキングな現場写真もあった。

お仕事柄、一年の四半期をタイで暮らす作者にとって今度の災害は他人事ではないだろう。一日も早い復旧を願うばかりだ。

5. 雪の高原

有村 博さん 8分02秒

北アルプスや八ヶ岳連峰が望める信州美ヶ原の王ヶ頭。青空にきらきら輝く樹氷が美しい。山好きな作者ならではの映像だ。

作品は前、中、後と三つに分かれ、明らかに偏っていた。「前と後」はほとんど人っ子一人出てこないが「中」は俄然にぎやか。OVC 例会で注文をつけられてこうなった。と作者の弁だが、カットの配分でなんとかならなかったはず。前と後はマイナーだが中はアップテンポという極端な選曲も三つに割れる一因とみた。

6. まつりの森

安居利次さん 8分30秒

飛騨高山映像コンテストの入選は今度で 2 回目。その表彰式出席のかたわら、撮り貯めた映像で作品にされたと推測される。作者たった一人のために人形を動かしその説明にも笑顔がこぼれる女性職員。匠の技を後世に残すため私財を投じて平成の屋台を 8 基も作らせた篤志家の話など、高山まつりの魅力を存分に盛り込み、市の観光課の人が見れば大いに喜びそうな作品。

これで次のコンテストも入賞は間違いないと思う。

7. 水上マーケット

黒田敏彦さん 12分40秒

バンコクの真ん中を流れるチョプラヤ川の雄大な俯瞰からこの作品は始まる。すでに何度か、会員の作品でお馴染みになったタイの水上マーケットだが、作者がレンズを向けた対象はバイタリティーあふれる売手の顔、顔、顔。主に女性だ。そこらが今までの作品とすこし違う。ただ、現地音とBGMだけでノンナレ、テロップもない。この作品に説明は必要ないが、タイを知らない人（私もその一人）のために水上マーケットの位置を示す地図がほしい。バンコクのエリアだが実際は80キロほど離れた別の場所、と聞いてはいるが。

8. 光のルネサンス（ハイビジョン）

前田茂夫さん 6分41秒

昨年師走の夜、中ノ島図書館の正面玄関に投影された幻想的映像。ウォールターペストリーと言うのだそうだ。複数のプロジェクターをコンピューターで制御していると想像するが、仕組みはよく判らない。

ハイビジョンは確かに綺麗だが昼間の映像より解像度がいくぶん落ちているように見えた。「光と影のページェント」でもこの傾向があったように思う。カメラのゲインが上がったのか、それともコントラスト比が1300:1と黒の締まりがやや劣る例会のプロジェクターの性能か。

9. 京都歳時記「冬」

紙本 勝さん 10分00秒

師走から節分まで古都の伝統行事をほとんど網羅してあり、一度や二度の京都通いでこれだけのものを撮るのは不可能。おそらく数年かけて撮り貯めたのではないか。それにしても作者の行動力には驚きを越えて尊敬に値する。普通10分もある作品はどこかにアラが出るものだが、これは撮りこぼしや無駄なカットが全くない完璧な作品。おそれいりました。

10. 四次元への彷徨

関 剛（筆者） 6分40秒

昨年末パソコン用のがきソフト買ったとき期間限定だが無料でダウンロードでき

るイラストや写真の素材集が付いていた。そのなかの宇宙を描いたCG写真を使い、試行錯誤で編集したオールエフェクトの作品。静止画の写真をいかに動くように見せるかだが、私の編集ソフトはこれが限界。

11. 王仁祭（ワイド）

金子博泰さん 5分00秒

主題は「大阪に残る渡来文化」とあり、王仁祭は副題で、それらしい映像は序盤の一分間しか出てこない。あとは百済寺と百済神社の歴史解説で占められていたが古事記や日本書紀のくだりは判りにくい。安居さんが歴史物を語るときに用いるような図解が必要。長年、わが国と朝鮮半島とのかかわりについて研究されている作者の言葉を信じたいが、百済寺とともに大阪城も国の特別史蹟になっている、というのは本当だろうか。私は聞いたことがない。

12. 春色（しゅんしょく）

江村一郎さん 3分30秒

遠くに三重の塔が二つ並んでいたから当麻町だろう。逆光が春霞のような効果を生み、やわらかな日差しも演出している。

菜の花と梅、そして神社の境内で遊ぶ子供たち。“暖かくなったナ～”という感じが実によく出ていた。太い電線が真一文字に横切るカット、それに早いテンポのシンセ曲は全体の雰囲気損ねる。

13. 水上集落のタクシー

山本正夢さん 5分10秒

都会のど真ん中にも石油が湧く豊かな国ブルネイ。首都バンダル・スリ・ブガワンと奥深い入江を挟んだ対岸に水上集落カンボン・アイルがある。対岸との一般的な交通手段は水上タクシー。と言ってもモーター付きの小舟だが、それが昼夜の別なくものすごいスピードで突っ走る。まさに水上の暴走族。迷路のような集落の水路を走るさまはスリル満点、衝突したら一巻の終りだ。作者もタクシーに乗ったが「ゆっくり走れ」と注文したのか、その映像からスリルは味わえなかった。残念。

以上で例会を終え、いつものように喫茶組と一杯組みの二手に別れて二次会へ向かいました。